

カレッジ里山 花実の森 活動報告(2017年7月) 第85号

活動日	時間	天候	記録者
2017年7月4日(火)	9:30~12:00 (里山Gと合同)	(晴)	(菅田)
2017年7月13日(木)	9:30~12:00	(晴)	
2017年7月21日(金)	9:30~11:30 (里山Gと合同)	(曇り)	
2017年7月22日(土)	13:00~15:00 (臨時活動)	(曇り)	
2017年7月26日(水)	9:30~11:30	(晴)	

今月も23日の親子観察会を控え集中的に活動、簡易観察小屋をほぼ完成させた。

参加者氏名 (12名+12名 +4名+9名 +4名+13名 +13名))	(7月4日) 松本治美、山田喜義、磯野彰夫、萩原一宏、田路義弘、井口久美子、清水英暢、 菅田忠志、笹井俊司、黒子兵吾、水島康夫、丸井宣夫
	(7月13日) 松本治美、水島康夫、俵貴志子、笹井俊司、黒子兵吾、菅田忠志、橋野美子、 田路義弘、清水英暢、山田喜義、米倉進、塩ノ谷年子
	(7月18日) 菅田忠志、田路義弘、米倉進、松本治美
	(7月21日) 菅田忠志、田路義弘、松本治美、米倉進、磯野彰夫、萩原一宏、黒子兵吾、 丸井宣夫、水島康夫
	(7月22日) 黒子兵吾、清水英暢、田路義弘、菅田忠志
	(7月23日) 菅田忠志、橋野美子、俵貴志子、南木久枝、磯野彰夫、塩ノ谷年子、黒子兵吾、山田 喜義、松本治美、山口俊雄、清水英暢、米倉進、田路義弘
	7月26日) 菅田忠志、水島康夫、松本治美、田路義弘、俵貴志子、橋野美子、米倉進、 小林澄夫、黒子兵吾、丸井宣夫、山田喜義、片岡隆夫、南木久枝

今回実施した 作業内容	今月はカブトムシ観察小屋の組立作業に特化した活動とした。
----------------	------------------------------

写真記録



観察小屋基礎周りの強化

中間柱及び腰板貼り付けの前作業

=====



腰板の打ち付け完了

入口扉作成作業も進む

倉庫前では女性陣による樹脂パイプの加工も

(7月21日)



7月13日につづいての作業



コーナーアルミ枠のすきまをテープで雨じまいの仮処置 後日シリコンシーラントでの防水処理を行う予定



羽化が遅れていた現在の生育ゲージにも、成虫の姿が確認でき始める。

金網の天井に・・・ 腐葉土・枯葉の表面にも

何故か今年羽化してきた成虫の雌雄の比率はオス 30:メス 1~2 程度。

不思議な現象。



天井部に取り付けるアーチ状の樹脂パイプの取付方法を設計変更。一サイズ太い樹脂パイプ(長さ600)を受けパイプとして側面8ヶ所に固定

(7月21日)



側面 8ヶ所に固定した受けパイプに、アーチ状の天井パイプ 4 本を差し込んでいく。



入口の扉も取り付け完了、本日の組立はここまで。お疲れ様でした。



下の作業場では、二日後に実施する「親子カブトムシ生育観察会②」で子どもたちに見つけてもらったカブトムシの成虫を集めておく箱の蓋(木枠の金網)づくり。

=====

(7月26日)



4本のアーチパイプをてっぺんで固定させるためのてっぺん木の取付。(右側)

同左(左側)



てっぺん木の取付も完了。



金網掛け作業の開始。



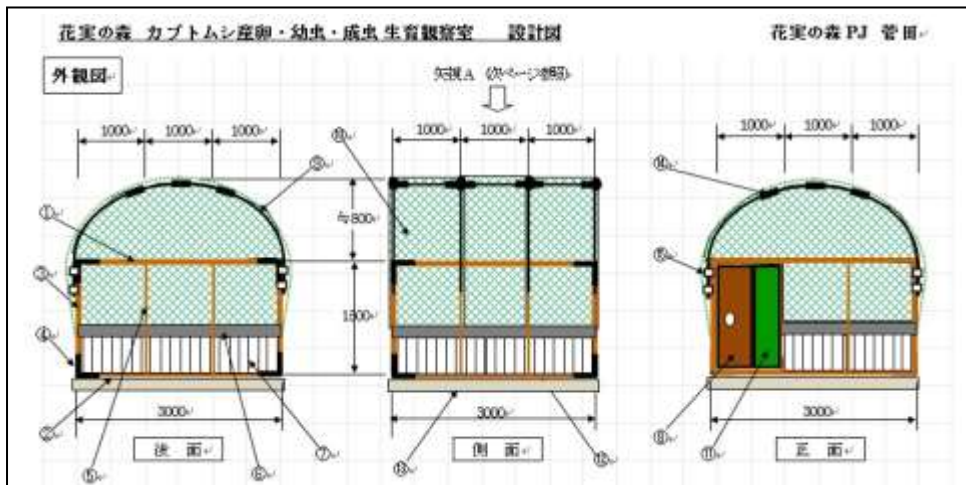
今年のメスが産卵にやってくるのを見越し、天井部分の金網は張らずに空けておく。



防腐塗料の塗布作業を残して一応完成。あとはカブトムシの自然の中での棲み心地を考えたり、観察に適した内装を進めていくこと。また、伐採せずに囲うようにして残した中のコナラが、うまく樹液を出してくれるようになるのを期待したい。



看板も設置した。下の作業場では、9月以降の今年の産卵・幼虫生育場所用に久しぶりに小枝のチップ作りも行う。



【当初の設計図】

どんな材料・資材にするか、この組立方式で自分たちでできるのか不安もあったが、メンバーの強力な一体感でほぼ設計図通りに仕上がった。今後のカブトムシ観察小屋として、子どもたちと少しずつ充実させていきたい。

なお、この観察小屋の建設は、認定NPO 法人 しみん基金・こうべ 様の助成をいただき実現したものです。